



さわらび

第93号

発行元：十和田市立中央病院

発行責任者：事業管理者 松野正紀

十和田市西十二番町14番8号

TEL.0176-23-5869

FAX.0176-21-1234

<http://www.hp-chuou-towada.towada.aomori.jp/02renkei/04sawarabiNews.html>

新年度のご挨拶

十和田市立中央病院

病院事業管理者 まつの 松野 せいき 正紀



4月から新しい年度になりました。今年もまた、多くの新しいスタッフを迎えることになりました。

新任、交代の医師を含めて、医局のメンバーが沢山代わりました。また、新しい初期研修医も2人迎えることが出来ました。そして、看護局、技術部門、事務系も新任、異動があり、新鮮な陣容となりました。一同、張り切っておりますので、地域の皆様にはよろしく願いいたします。

国の医療行政の流れは、予想される超高齢化社会への対応として、地域包括ケアシステムの構築に向かっています。このシステムは、高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、地域での包括的な支援・サービスを提供する体制のことです。中央病院は急性期医療に軸足を置いています。病院の医療そのものがこのシステムの中に組み込まれていくこととなります。私どもも、この地域包括ケアシステムの構築に関わっていくこととなります。そのためには、地域の医療機関、関連施設との連携を一層深めていく努力が欠かせません。

当院には昨年度まで、歯科医師のライセンスを持った初期臨床研修医が一人おりました。彼からは、上十三歯科医師会の先生方のご指導ご協力により、新しい「医科歯科地域連携 十和田モデル」を造り上げることが出来たと聞き及んでおります。素晴らしいことだと思います。これからは、このような多職種連携の新しい取り組みが、益々重要になってくるものと思っています。

今年度もまた地域連携を強化しながら、病院一丸となって地域医療に貢献して参ります。よろしく願いいたします。

新年度のご挨拶

二つのガイドライン

たんの ひろあき
十和田市立中央病院 院長 丹野 弘晃

新しい年度を迎え、ご挨拶を申し上げます。日頃は当院地域医療連携室の運営にご協力いただきまして誠にありがとうございます。医師の人事異動のご報告になりますが、循環器内科診療部長に出町順先生、整形外科診療部長に沼沢拓也先生、外科科長に土屋朗之先生をお迎えし、各位の専門性を生かした診療を開始しております。初期研修医としては、水野隆史先生、山井悠吉先生が医師としてのスタートを切っておりますので、共に育てていただきたいと存じます。また、今年度は各所属長や看護師長の異動が多いこともあり、これらの変化を刺激にして新たな気持ちで前進して参りたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。



さて、当院の状況に合わせたのでしょうか、今年度の病院運営の方向性を決めるようなガイドラインが平成27年3月31日に二つ同時に公表となりました。一つは厚生労働省から示された地域医療構想策定ガイドラインであり、もう一つは総務省から示された新たな公立病院改革ガイドラインです。前者は原則として現在の二次医療圏内の2025年の医療需要を推定した上で、さらに病床の機能別分類(高度急性期・急性期・回復期・慢性期)を医療資源投入量で行って、機能別の必要病床数を推計し、昨年度各医療機関から報告された機能別病床数と摺合せをして、適正化しようという内容のようです。後者は従来の内容である「経営効率化」、「再編・ネットワーク化」、「経営形態の見直し」は踏襲されておりますが、「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」が加えられ、前者と強くリンクしています。

これらガイドラインに示された内容に基づいて計算された上十三医療圏の医療需要推計では、今後外来患者数は減少しますが、入院患者数は2040年頃まで増加するとされています。どのような病態の入院患者が増えるのかは今後県から示され、データに基づいた病床の機能分化が図られることになりそうです。

当院の存在価値、そしてミッションを考えたとき、それは地域住民の皆さんに医療で貢献し成果をあげることに尽きると思っております。どのような医療でとなれば、医療圏の中での当院の強みである救急医療・高度先進医療・緩和医療等であり、さらに充実させながらその機能を発揮し続けなければならないと思います。また、地域包括ケアシステム構築に向けてのサポート役も当院に与えられた重要な任務であると考えております。

これからの医療連携には、これまでの信頼関係を基盤にして、住民の皆さんの理解を得ながら、行政の枠や医療機関経営の枠を超えた形の、住民本位の患者さんの病態に応じた地域完結型医療が完遂できる連携が必要なのだと改めて感じます。

当院は急性期医療を担う公的病院として、二つのガイドラインに基づいた改革プランを策定し病院運営を進めることとなりますが、上十三医療圏の地域状況を踏まえて柔軟に対応していく所存です。中核病院としての情報公開と、皆様との情報共有が益々欠かせないと思いますので、今後とも何とぞよろしくお願い致します。



岩走る 垂水の上の さわらびの 萌え出る春に なりにけるかも

はじめまして、薬局の岩織です。

日頃より地域の医療関係機関の皆様には大変お世話になっています。

薬局は“さわらび”の季節に新人2人を迎え、久しぶりの増員となり総勢14名で業務に当たっています。新風が吹き込み薬局内の雰囲気も変化しています。

私が入職した当時は、一日中薬局内で調剤と注射払い出し業務に明け暮れ、入院患者さんの顔を見て会話することは殆どありませんでした。その後、医薬分業推進で院外処方箋が発行され、病棟業務が始まり、さらにはチーム医療が推進され、病院薬剤師業務は変革の一途を辿っています。

病院薬剤師の知名度が低い時代には、「薬のあるところに薬剤師あり」「顔の見える薬剤師へ」などをモットーに、院内で存在感のある薬剤師になるべく試行錯誤の連続でした。現在は院内外で我々の存在と業務内容が評価されつつあります。「飲んでる薬の副作用について聞きたい」「A 病院から貰っている薬は一緒に飲んでも良いですか?」「今こういう症状があるけど、何か良い方法や薬はないの?」etc.入院患者さんから直接話しかけられ、薬剤師冥利に尽きることも多くなりました。また、疑義照会を含めて中止・減量、処方変更、処方提案等で医師と関わる機会も増えました。

業務の一部分はコンピューターによる自動化が進み、労力やインシデントは減少しましたが、逆に薬学的知識を生かした薬物治療のモニタリングや処方設計等、チーム医療の中での役割が増大し、他のメディカルスタッフと繊細かつ良好なコミュニケーションを取る能力を求められるようになってきました。

今、一番の課題は持参薬鑑別システムの運用です。入院患者さんの持参薬を鑑別し、その履歴を電子カルテに反映させることで、医師のオーダーの負担を軽減できます。しかし問題点が山積しており、まずは早急にマニュアル作成に取り組みたいです。

次に後発医薬品使用の推進です。DPC 対象病院では後発医薬品係数が病院の収益に大きく影響するため、後発医薬品の発売に合わせて先発からの切り替えが必要になってきます。医薬品情報を収集して効能・効果、副作用、薬品の安全性・安定性、適応症等検討して医薬品選定を行っていますので、医師の方々にもご協力お願いしたいと思います。

また、早期に病棟薬剤業務実施加算算定を目指しています。その為には、1病棟1週間につき20時間相当以上の病棟薬剤業務の実施が必要となり、薬剤師の増員が必須です。病院薬剤師は大変やりがいのある仕事ですが、調剤薬局等に較べて業務がハードで専門的な知識が要求され、常に医薬品の新情報取得の為に勉強が必至の現状では、入職者を確保する事は容易ではありません。薬学部が6年制に移行し5ヶ月の実務実習が必修となり、当院でも実習生を受け入れ薬学生の教育にも力を入れています。病院実習を通して興味や意欲を持って貰えれば病院志望の薬学生も増加するのではないかと期待しています。

まだまだ課題は沢山ありますが、当面の目標に薬局一丸となって取り組んでいくつもりですのでどうぞ宜しくお願いいたします。



平成 27 年 4 月 1 日付けで医師の異動がありました。

所属	氏名
循環器内科診療部長	出町 順 <small>でまち じゅん</small>
整形外科診療部長	沼沢 拓也 <small>ぬまさわ たくや</small>
外科科長	土屋 朗之 <small>つちや はるゆき</small>

所属	氏名
臨床研修医 (医員)	水野 隆史 <small>みずの たかし</small>
臨床研修医 (医員)	山井 悠吉 <small>やまのい ゆうきち</small>

お知らせ

病棟フィッシュ活動の紹介 3階西病棟 看護師長 坪 利佐

看護局では平成20年からフィッシュ活動を行っています。今回皆さんに紹介するに当たり『フィッシュ』についてお話したいと思います。

フィッシュとは英語で魚のことですが、ここでいう『フィッシュ』とはアメリカ西海岸シアトルで生まれた哲学です。当時パツしなかった「バイクプレイス市場」という所のオーナーと従業員は「世界的に有名な魚市場」になろうと決心し、仕事をする上で何が必要かを考えたそうです。そこで生み出されたのが次にあげる4つのフィッシュ哲学です。この哲学のおかげでバイクプレイス魚市場はやりがいのある職場に変身し、今では活気に満ちた場所として有名になったという事です。

その4つの哲学とは、

仕事を楽しむ … 適度な緊張と適度なリラックス 「遊びは信頼と尊敬、一致から」始まる

人を喜ばせる … 自分自身も喜ばせる 「みんなの日も作ろう」

注意を向ける … 相手が1番気になっている事にきちんと向き合う 「今」に注意を向けよう

態度を選ぶ … どんな1日にするかは自分で選べる 「ふてくされた顔」で仕事をするか「笑顔」ですか

このフィッシュ哲学で自分たちも楽しく、生き生きと働き、患者様も明るい気持ちで入院生活が送れるという事を目指しています。具体的に3階西病棟で行っていることは、患者様家族に喜んでいただき、癒しになってほしいという願いを込めて病棟の飾り棚の装飾を、毎月担当を決めて行っています。担当者は季節のもの、趣味のものなど工夫を凝らし飾り付けています。患者様や医師、掃除のおばさんにもほめられることもあり、とてもやりがいを持って行い、レベルも上がってきています。



もう一つ紹介しますと新採用者への「ウエルカムボード」の作成を行っています。その時に続けているのはスタッフの「笑顔」の写真をメッセージに添えるようにしています。笑顔の写真には一緒に「笑顔」で1年頑張りましょうという気持ちが込められています。

フィッシュ活動の継続によりスタッフ一人一人が患者様、家族、そして仲間の為に毎月、毎年、活動していくことの意識が芽生え、定着していると感じます。このように組織、特に病院では相手を思いやる、おもてなしの気持ちは必要であると思います。これからも自分たちも楽しみながらこの活動を続けていきたいと思っています。皆さんもやってみませんか。

さわらびパーティーのご案内

新採用及び新たに配属となった職員を歓迎し、親睦を深めるため、今年度もさわらびパーティーを開催します。

【日時】平成27年5月15日(金)18:30~

【場所】富士屋グランドホール
東一番町2-28(. 23-1000)

【会費】5,000円(当日徴収)

【お申込み、お問い合わせ】

十和田市立中央病院 業務課
. 23-5121 (内線 3251、3220)



今月のアート
「おひさまと、おはなしを。」
画・畑中光昭
スイートピー